

【活用した ICT 教材】

- ・ iPad (動画撮影、静止画撮影)
- ・ PC (パワーポイント)
- ・ TV

【児童生徒の実態と ICT 機器導入のねらい】

- ・ 対象：小3～中1、男女9名のグループ
- ・ 学習や活動の説明などは見て分かるような提示の方法が有効な児童生徒が多い。また TV などの画面にはよく注目することができるため、iPad で撮影した動画やスライドなどを TV に映し教材とした。
- ・ 運動や音楽では、練習の目標確認やできたことが分かる振り返りとして、活動の動画撮影、鑑賞をおこなった。

【活用例】

- ・ 運動：跳び箱やフライングディスクなどの活動時、一人ずつ前に出て跳んだり投げたりする様子を撮影した。TV に繋ぎ動画を映し、腕や足などの身体の使い方を見て確認した。正しい身体の動かし方を一人ひとりに合わせて説明し、練習の目標とした。数回の学習で練習を重ねた後に発表の時間を作り、活動の様子を撮影した。練習前と後の動画を見比べて、できるようになったことなどの振り返りをおこなった。
- ・ 校外学習 事前学習：パワーポイントのスライドを使用し校外学習の日にちや行程、行先、校外学習の目的などを説明した。写真やイラストを使い、見て分かる内容にした。後半には確認を兼ねたクイズを実施した。

【実際の活用の様子】

- ・ 運動では、児童生徒本人が自分の身体の動きを TV の画面で確認したことで、身体をどのように動かしているのか、手本と見比べてどうなのかなどを客観的に見ることができ、その後の練習で取り組む目標を理解することに繋がった。また友だちの活動を見ることで「〇〇さん上手いね」などの感想を述べる様子があり、友だちに関心を向ける機会となった。練習を重ねた後の動画で振り返りをおこなうと、できるようになったことが分かり、笑顔で画面を見る様子が見られた。「〇〇ができるようになって嬉しい」と感想を述べる児童もいた。
- ・ 事前学習：行先や行程の写真など、画面によく注目して見ていた。確認のクイズでは積極的に発言して答えるなど、意欲的に事前学習に参加する様子が見られた。校外学習当日は、混乱することなく見通しを持って活動したり移動をしたりすることができた。光や音などの体験的な活動を無事におこなうことができた。

ブッククリエイターを活用した手順の提示

【活用した IC 教材】

- ・ iPad アプリ：ブッククリエイター
- ・ iPad カメラ
- ・ TV



【児童生徒の実態と ICT 機器導入のねらい】

- ・ 対象：中 1～3 年 4～5 名の 4 グループ
- ・ TV 画面に画像などを映すと注目して見ることのできる生徒が多いため、iPad と TV を使った制作手順の提示を検討した。アプリ：ブッククリエイターは本を読み進めるような形式で、制作手順や作業工程を写真とともに伝えることができるので活用した。また、1 つ前の手順に戻るなど簡単に操作ができることも利点と感じた。
- ・ 作品鑑賞は、自分の作品と友だちの作品を見比べられるように、iPad で撮影し TV に映すやり方を選択した。

【活用例】

美術：素材として制作手順を 1 工程ずつ写真に撮り、アプリで 1 スライド内に 1 工程となるよう編集した。学習の導入で制作手順を TV に映して提示をした。制作後には完成した作品を写真に撮って TV に映し鑑賞をおこなった。



【実際の活用の様子】

- ・ 手順の説明では、よく画面に注目して説明を聞く様子があった。制作の順序など見通しを持って活動する生徒が増えた。生徒からもう一度手順を確認したいなどの要望があり、はじめから確認するなどの対応ができた。鑑賞では、友だちの作品や自分の作品を見比べて感想を述べるなどの様子があった。また、自分の作品が写ったときに良い表情を見せることがあった。